

| No. | 質問・意見概要  | 教育委員会の回答・考え方  |
|-----|--|---|
| 1   | 現在三橋中では、中学校前のけやき通りにおいて保護者による送迎が行われており、苦情が寄せられている。(仮称)三橋小に再編されたら、さらに送迎が多くなると思うが、どのように対応するのか？学校への保護者の車両の乗り入れ等は検討しているか？ | まず前提として、再編後の小学校にはスクールバスの導入が不可欠である。そのため、バスの乗降場所及び下校時に停留させておく場所が必要であり、再編協議会(仮称)で運行方法等とともに検討していきたい。このように、小学校の通学は、徒歩またはスクールバスが基本である(学童保育は保護者お迎え)。また、学校を整備する際、保護者用の駐車場は補助対象ではないため、対応が難しいところである。ただ、どうしてもバスではなく保護者による送迎をしたいというニーズもあることは理解する。そこは協議会で今後検討したい。  |
| 2   | ニッ河校区は全て2km圏内か。徒歩通学の場合、ニッ河校区から現三橋中までの道は狭く、交通量が多い場所もある。これらを整備してからでなければ、小さな子どもは心配で歩かせられない。                             | ニッ河校区全ては2km圏内に入らない。ただ、この2km超は目安であり、どの範囲をスクールバスとするのか、乗降場所等については、今後、新設校ごとの再編協議会(仮称)で検討する。ただし、所要時間の関係で、各家庭を回るのは不可能だと考えている。また、通学時の安全対策についても、協議会で検討する予定。先行の他自治体でも、安全対策にお金をかけているところだが、全てを一度に整備することはできない。私見だが、低学年、高学年でスクールバスの運行方法を変えることも方法としては考えられる。また、通学の安全対策については、警察とも連携して行っていく予定である。  |
| 3   | 現在、旧三橋町地区の児童生徒数は多く、減少率も低い。他に再編の方法はあるのではないか？<br><br>スクールバスは何台での運行を想定しているのか？台数が多くなれば、現在より経費が多くなるか？                     | 確かに、旧三橋町地区については、他地区に比べ減少率が低いのは事実であるが、藤吉校区を除けば、1学年1学級と学校の規模が小さいのも事実である。人口推移を見ると、駅前の再開発等により藤吉校区は想定より人口が増えているが、他の校区は想定以上の減少幅である。藤吉校区を除く4校を統合する考え方もあるが、藤吉校区についても、今後どこまで人数・規模を維持できるかわからない。このような状況において適正規模を実現させるためには、やはり旧三橋町地区5校の統合が必要だと考えている。中学校についても、10年後までは4クラスが維持できる計算であるため、必要無いという考え方は理解できる。一方、大和中を考えると、2クラスが維持できるかどうかという状況。そのため、大和中と三橋中の統合により、適正規模を実現したい。こうした状況と、現在、旧大和町地区において複式学級の基準に合致する学校が存在することを勘案し、先ほど示したスケジュールでの再編を計画している。<br><br>運行方法、停留所の場所やコースを決めなければ必要台数が算出できないため、想定台数はまだ分からない。必要になる台数は準備したいと考えている。参考までに、みやま市の桜舞館小の場合は4台を別コースで2往復させているとのこと。 |

| No. | 質問・意見概要  | 教育委員会の回答・考え方   |
|-----|--|--|
| 4   | <p>今の小規模校の良さがあるので、無理に人数を集めなくても、少ないなりの教育を行えば良いのではないかと考えている。多くなれば先生の目が行き届かなくなり、問題が多くなる。人数が少ない学校だけ統合すれば良いのではないかと考えている。</p>    | <p>(学校教育課長)現状のままが良いという気持ちは分かる。再編する理由としては、まず複式学級の基準に合致する学校が既に存在することが挙げられる。また市内に19小学校を維持した状態で、今後十分な教育への投資が可能かと考えると厳しい。小規模校にも確かにメリットはあると思うが、学校の規模が大きくなれば、学級担任以外の加配や専科の先生が配置される可能性が高まる。また、1学年1学級の場合は学年を1人の先生で受け持つ必要があるが、例えば1学年3学級に先生が3人となれば、学年に対し先生がチームで対応出来るため、指導の幅が広がる。加えて、施設に対する投資についても、再編することで資金を集中させることが出来る。複式学級になる学校のみ統合すれば良いという考えも理解できるが、今後の人口推計を鑑みると、柳川市全体としてのビジョンを持っておく必要があり、今回示したような規模の再編を行わなければ、今後、教育環境の充実が難しくなると考えている。10年で慌しく再編することへのご心配もあるかと思うが、10年の間にこの計画が相応しくない、計画を実行しても効果が得られないような状況になった場合は、計画見直しも視野に入れて検討していく。今後パブリックコメント等を実施し、皆様の意見次第では計画変更の余地はあるが、再編自体を白紙することはできないと考えている。</p> <p>(首席指導官)なぜ規模を大きくするのかというご質問だが、かつて1学級50人程度での学習が行われていた時代があった。当時の教育では、全体を一律に底上げするような考え方に重点が置かれていた。今の教育では、子どもの多様性への対応が命題であり、いろんな子どもの個性を輝かせることが求められている。そのため、学校規模を適正化し、1校あたりの教員を増やし、複眼的に子どもたちを見ることが大事である。このように教育に求められているものが変わってきているので、再編が必要と考えている。</p> |
| 5   | <p>現在子育てしている保護者は近くに学校があるということを重視して家を構えている人もいます。小学校を6校にまで減らすこの再編計画は、子育てをしている人の気持ちを汲んでいない。住みやすいまち、子育てしやすいまちから遠ざかっているのでは？</p> | <p>(学校教育課長)確かに、学校は居住環境を決定する上で重要な要素であると思う。学校が近くにないと人が寄ってこないという意見も理解できる。ただ、教育委員会としてできることは、今回の再編により、市内外から選ばれるような学校を作ることであると考えている。もちろん現在も市内小中学校の教職員の方々には大変頑張ってもらっているが、努力にも限界がある。学校規模を大きくすることで一定の教職員集団を確保し負担を軽減することや、施設整備の負担を軽減し、資金を集中させることで、教育効果を上げていきたい。再編により、この学校に通わせたいと思って頂けるような魅力ある学校を作ることがまちづくりへの貢献であると考えている。</p> <p>(首席指導官)魅力ある学校づくりについて補足。規模が大きくなることで、現在に比べると教職員集団の年齢構成や専門科目等バランスが良くなる。本来であれば全ての学校で必要なことであるが、できていない学校もあるのが現状である。再編を行うことでこの課題への対応も可能になると思われる。</p>  |

| No. | 質問・意見概要   | 教育委員会の回答・考え方   |
|-----|---|--|
| 9   | 同じ市内で蒲池・昭代校区は義務教育学校、大和・三橋校区は大規模な中学校となるが、平等な教育になるのか？不公平感に繋がらないか？             | なぜ蒲池・昭代校区で義務教育学校を導入するのかといえば、この2校区は、再編の基準で他の校区と組み合わせることが難しいためである。義務教育学校ならば、各学年1～2クラスと子どもの数が少なくても、9学年あることから、学校規模が維持でき、教職員数を確保することができる。また、この2校区では義務教育学校を導入するにあたって、小・中学校が隣接しているという立地的な好条件がある。反対に、1学年の学級数が多いと、9学年ある義務教育学校では全体の統制が取りづらく導入が難しい。他の校区でも導入して欲しいという意見があれば検討の余地はあるが、小学校が入るスペースを確保する等、設備面での課題もある。通常の6・3制小中学校、義務教育学校それぞれに、導入する校区に合った良さがあり、不公平感は無いと考えている。 |
| 10  | 大和中と三橋中との統合中学校の位置は現豊原小とのことだが、通学距離がとて長くなる。他の候補はあるのか？療育センター周辺はどうか？            | 現豊原小もしくはその周辺で用地が確保できればと考えている。療育センター周辺となれば農地転用が必要なため、なかなか実現が難しい。また、旧大和町地区であれば過疎債が使えるということも理由の1つである。新設整備のため、財源の問題等総合的に考えて決定する必要があると考えている。  |
| 11  | 学校が遠くなることで、不登校の子どもがさらに増えるのではないかと？また、いろんな個性の子が集まることで、教育的に対応、指導が難しくなるのではないかと？ | 不登校に関しては、原因を丁寧に見極める必要がある。学校からの報告等を見る限り、通学距離に起因する不登校は私の知る限りではなく、友人関係・人間関係に起因するものが多い。これに関しては、充実した教職員体制で手厚い対応を行ったり、子どもたちが増えることにより、新しく波長の合う友達を見つけたりすることができるようになり、いろんな解決が期待できる。また、子どもの個性に関しては、100人が200人になったからといって個性も2倍に増えるわけではない。一定の教職員集団を確保することで、先生たちがチームで、いろんな視点から多様性を重視した対応を行うことができるようになり、子どもたちの興味にあわせ、課題別、習熟度別学習などの導入も可能になる。                                |